

「夢募集」企画大賞

ウッドデッキ築造プロジェクト(後編)

夢のチャーム

平成22年4月1日、長崎大学文教キャンパス生協食堂に、「ウッドデッキ」が完成しました。発案からデザイン、築造まで、全て学生たちの手によって行われた全国初のプロジェクト。後編では、完成までのラストスパートを紹介します。

◎食堂の混雑を解消したい

平日のお昼時は大混雑していた文教キャンパス生協食堂。この混雑を解消すべく「ウッドデッキ築造プロジェクト」が立ち上がりました。工学部4年生の松本さんの発案で、生協横の空き地にウッドデッキを作り、大幅な座席増を図るという企画です。着工は昨年10月。基礎コンクリートの打設や基礎石の設置、木材の防腐処理などの作業を経て、ようやくウッドデッキの全貌が明らかになった12月下旬頃までを前回紹介しました。

◎ウッドデッキ細部の製作から完成まで

今回はその後編として、床板や手すりの設置、テーブルチェア製作の様子、そして完成までを、このプロジェクトに関わったメンバーの感想とともに紹介します。実際、今年1月、9年ぶりに長崎を襲った大雪のせいで作業が中断したりと思わぬアクシデントもありました。しかし、実作業を通してしか見えてこないもの、味わえない充実感と感動、何より、自分たちが主体となって取り組むプロジェクトが、完成に近づく喜びが後押しし、プロジェクトに携わった学生たちは常にバイタリティーに溢れていたようです。学生間でも好評のウッドデッキ。皆さんもぜひ一度訪れて、手作りならではの味わいやぬくもりを楽しんでみてください。



「ウッドデッキ」築造に取り組んだ
主要メンバー

県外の人たちも注目しています



ホームページ制作・運営担当
藤田 京康さん
(工学部4年)

主にホームページの制作・運営などを担当しました。県外の方からのアクセスも多く、メンバーの一員として、ものづくりの喜びを共有でき、うれしく思います。

新しい発想で挑んでください!



プロジェクト副代表
小野原 公一さん
(工学部4年)

机上の学びだけでは味わえない有意義な経験ができました。後輩のみなさんにはぜひ、私たちの発想を超えるプロジェクトに挑んで欲しいですね。

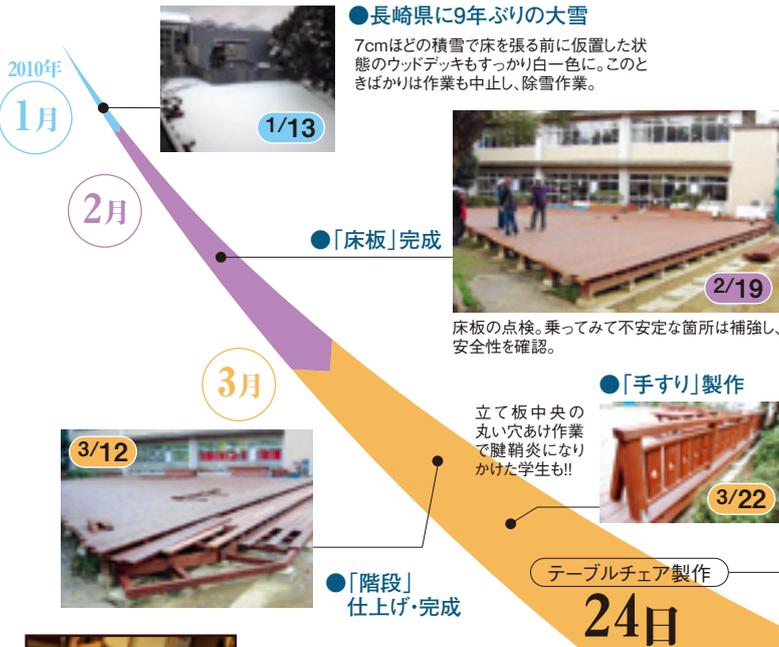
「工学」の大切さを改めて肌で感じました



ウッドデッキ築造の発案者
プロジェクト代表
松本 峻さん
(工学部4年)

実作業をするうちに改めて工学の大切さを肌で感じる事ができただけでなく、多くの人々と出会い、互いに協力し合うことで活力となり、ひとつの目標を達成することができました。大学生活において貴重な体験をさせていただいたことに、心から感謝しています。

作業の流れ



●テーブルチェア製作 (有)中村木工所 Jalan-Jalan工場にて



●搬入・花植え



プロの視点で的確な助言をいただきました!!

(有)中村木工所 Jalan-Jalan 社長 中村 伸一さん

松本君との出会いは約1年前、「大学にウッドデッキを作りたい」と、私を訪ねて来たのが始まりでした。彼なりのインスピレーションがあったのでしょうか、何のつながりもない私のところにこのプロジェクトの相談を持ちかけて来たことには本当に驚かされましたね。「こんな大学生がいるのか!」「発注者は大学側ではないのか?」「そもそもこの計画は本当に実行できるのか...?」私の不安をよそに前代未聞の工事は着々と進みました。こんな工事は私自身も今まで経験したことがありませんでしたが、完成したときは「やってよかった」と感じずにはいられませんでした。彼らの情熱の結晶、これから大切に使うてあげてください。

24日

搬入
25日

●最終確認



メンバー全員で最終確認。中村社長がテーブルに記念の焼き印をプレゼント。

最終確認
29日

4月

2010 4/1日
2010 4/2日 入学式
オープン!!

工期	平成21年9月～平成22年3月
デッキの広さ	300㎡(130人収容)
デッキ材	レッドシダー、杉(熊本、宮崎産)

使用木材	使用部位	数量(本)
2×8(レッドシダー)	床板、階段	510
2×6(レッドシダー)	手すり	13
2×4(レッドシダー)	手すり	15
150mm角材(杉)	柱、梁	47
120mm角材(杉)	手すり柱	13
150×76mm角材(杉)	食堂側床板受け	3
90mm角材(杉)	根太、階段梁	139

◎木材総計:350本 ◎使用ビス総計:約1万本



●オープニングセレモニー

待ちに待ったオープニング当日。片峰茂学長をはじめ、様々な関係者も駆けつけ、盛大に行われました。

長崎大学ウッドデッキ 検索 http://starleague.web.fc2.com/nagasaki_univ/

テレビにも取り上げられました!!



「ウッドデッキ」着工からオープンまでの様子は、テレビ(テレビ長崎「スーパー特集:学食のプロジェクトX」2010年4月8日放送)にも取り上げられ、各所から反響を呼びました。



尾崎 博和さん (工学部2年)

「ものづくりの「楽しさ」を学びました」
先輩方から、ものをつくる「楽しさ」を学びました。今回の経験をさらに発展させながら、将来は自分たちが中心になって、このプロジェクトを超える何かを成し遂げたいと思っています。



六倉 賢太さん (工学部4年)

「やりたいこと」を先に考えることが大切だと改めて思いました。「やりたいこと」があるから「やらなければいけないこと」がはつきりします。それは苦しくても目標達成の原動力になります。



中野 一也さん (工学部4年)

「学生でも何かやれる!」というのを伝えたくて、モノづくりをしながら、記録を残しました。出来上がったときの感動は一生の思い出です。



川端 将太郎さん (工学部4年)

「不安や戸惑いを乗り越えて」
プロジェクトでは主に実作業を行いました。最初は同じ作業の繰り返しで終わりが見えない不安があったり、慣れない工具の使い方に戸惑ったりしましたが、徐々に愛着が増大しました。